



柳宗理氏が使っていた道具と、当時の仕事場の様子

巻頭言

本学が新校舎に移転してから約2年半が経過し、新校舎で新たに設けられたアートギャラリーでは、今年度4つの展覧会が開催された。4月7日から6月10日までのコレクション展1「西洋美術・工芸の世界」、6月17日から8月26日のコレクション展2「KANABIの百工比照(染織編)」、9月2日から11月25日の開学80周年記念イベントの特別展「柳宗理 デザインの軌跡—三つの椅子ができるまで—」、そして12月2日から3月1日までのコレクション展3「卒業・修了制作の優品」である。各展覧会の詳細については後述の記事を参照いただきたいが、いずれも趣向を凝らした密度の高い内容で、展示に応じたワークショップの実施など、新たな鑑賞体験の提供にも取り組んでいる。その成果として、今年度は5,112名の来場者を迎えることができた。市民に開かれたアートギャラリーとして、今後もより多くの方々に親しまれる場となるよう一層力を注いでいきたい。

開学80周年記念イベントの特別展「柳宗理 デザインの軌跡—三つの椅子ができるまで—」に関連し、11月21日に開催された講演会に参加した。柳工業デザイン研究会で長年にわたり柳宗理氏と共にデザインに携わってきた藤田氏と、バタフライチェアをはじめとする製品の開発・製造を担ってきた天童木工の加藤氏が、柳氏の存りし日のデザインプロセスや、工場・現場での具体的なやり取りについて語られた。その言葉からは、柳宗理氏のデザインに対する真摯な

姿勢や思想が強く感じられ、かつて柳氏の講義を受けた記憶を振り返り、たいへん感慨深く拝聴した。柳宗理記念デザイン研究所の移転を見据え、金沢市西町教育研修館(旧石川県繊維会館)では、現在改修工事が進められている。同館は建築家・谷口吉郎氏の設計による1952年竣工の貴重な建築であり、外観のみならず内部に至るまで、谷口氏のきめ細やかな意匠が施されている。金沢市は本建物を保存・活用し、建築文化の発信を行うとともに、約7,000点の柳宗理氏のデザイン関係資料を活用し、人々のデザインへの理解と創造力の向上を図り、金沢の魅力の深化と産業振興につなげることを目指している。今回の柳氏のデザインプロセスをたどる特別展は、この新設予定の柳宗理デザインミュージアム(仮称)に先立つ、意義深い試みであった。

また今年度、美術工芸研究所では収蔵スペース逼迫への対応として、卒業・修了制作の収蔵制度を見直す大きな決断を行った。数年にわたる議論の末に定められた新制度は、研究所メンバーの献身的な尽力によるものである。今後は全卒業・修了制作のデジタルデータをアーカイブし、Webサイトでの公開を行っていく。コレクション展3「卒業・修了制作の優品」で紹介された数々の優れた作品は、長年にわたる収蔵の成果であり、これら貴重な収蔵品を活用していくことは、今後の研究所に課せられた重要な使命である。

美術工芸研究所所長 安島 諭

アートギャラリー展覧会

金沢美術工芸大学は、1964年の開学以来、教育と研究に活用する資料として、また優れた芸術を鑑賞する機会を市民に提供するために、世界的に著名な芸術家の作品を含む約7,600点の芸術資料を収集してきた。2023年10月1日の新キャンパスへの移転以降は本学の学生はもとより、市民の皆様をはじめ学外の方々も訪れる「アートギャラリー」（美術館・図書館棟1階）を開設し、絵画、彫刻、工芸、デザイン、その他の分野にわたる芸術資料を「コレクション展」や「特別展」で随時公開している。2025年度は、3つのコレクション展と1つの特別展を開催した。

■コレクション展1

「西洋美術・工芸の世界」

会期 | 2025年4月7日(月)～2025年6月10日(火)

入場者数 | 941名

主催 | 金沢美術工芸大学 美術工芸研究所

テーマは「西洋美術」と「西洋工芸」。本学の西洋美術・工芸コレクションは北陸屈指の規模を誇る。工芸分野からは、19世紀末から20世紀初頭に実際に着用されたドレス2点、服部敏治氏より寄贈されたマイセン磁器コレクション、そして、ここ金沢の地で開催された国際的な公募展「国際ガラス展・金沢」（前身「国際工芸デザイン交流展」、「国際ガラス工芸展」を含む）と国際デザインフェアの出品作、加えて彫金からガラス工芸に転向しヴェネチアで修行、色ガラスと金箔を用いた作品で知られる藤田喬平の作品、絵画からはテンペラ技法に焦点を絞り、希少な技法見本や、彫刻からはオーギュスト・ロダン《歩く男》を展示した。

【展示作品】

《マイセンファクトリー》ヨハン・テオドール・パウル・ヘルミヒ(1880-1900)／《マークプレート》マイセン社(不詳)／《ポ・プリ》マイセン社(1860-1880頃)／《パゴダ》ヨハン・ヨアヒム・ケンドラー(1950)／《Optic Cube “STRAWBERRIES AND CREAM”》ジョン・クーン(1990)／《オブジェクト Glasmacher Herz(ガラス工の心臓)》ハンス・レーデル(1989)／《花瓶(ベース)》トランショー・ヒッター工房(不詳)／《ボルカーノ(瓶)》バーティル・ヴァーリン(20世紀後半)／《香水瓶》3点 クリストファー・コミンス(20世紀後半)／《飾篋 龍田》藤田 喬平(1992頃)／《ヴェニス花瓶》藤田 喬平(1996)／《レセプション・ドレス》L. HENTENNAR(1870-1880)／《アフタヌーン・ドレス》DRECOLL(1900-1905)／《テンペラ技法見本》石原 靖夫(1988)／《ピエロ・デル・ポッライオーロ「若い女性の肖像(部分)模写」金箔を用いたテンペラ》佐久間 詔代(1990-1991)／《カルロ・クリヴェッリ「マグダラのマリア(部分)模写」金箔を用いたテンペラ》三好 寛(1990-1991)

／《デューラー「自画像(部分)模写」混合技法》三好 寛(1987-1991)／《デューラー「自画像(部分)模写」油彩》三好 寛(1987-1991)／《デューラー「自画像(部分)模写」テンペラ》三好 寛(1987-1991)／《L'HOMME QUI MARCHE(歩く男)》オーギュスト・ロダン(1900頃) 他 合計47点



会場内展示風景

■コレクション展2

「KANABIの百工比照（染織編）」

会期 | 2025年6月17日(火)～2025年8月26日(火)

入場者数 | 1,252名

主催 | 金沢美術工芸大学 美術工芸研究所

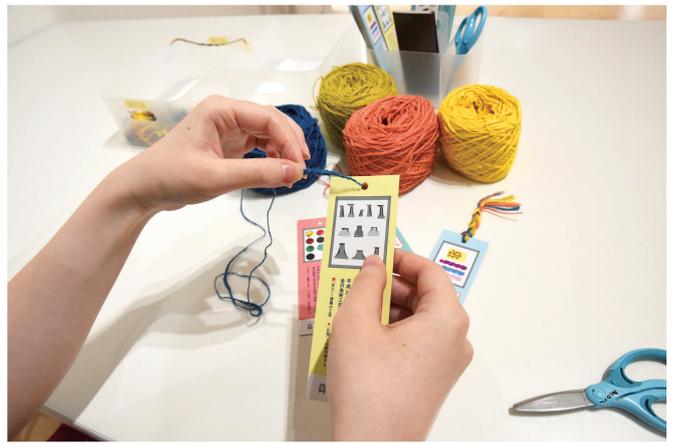
テーマは「糸」である。「糸」は暮らしに欠かせないものであり、私たちが日々身に着けている衣服もまた、糸から成り立っている。人間の知恵と技術、そして創造力によって、糸は組むことで紐となり、織ることで布となってきた。本展では、「美しい組紐」「植物染めの糸」「糸から絹ができるまで」「糸や布にたくした想い」「能登上布×洋服」「ワークショップ：糸をつかって“しおり”を作ろう！」の6つの構成により、関連資料を展示した。

【展示作品】

組紐258点／植物染めの糸見本（印度藍 他）55種／能登上布ビスチェ他5点／能登上布（亀甲・蚊紺二行柄、卍柄、網代柄、麻の葉柄、ミンサー風ダイヤ柄）6点／八重山染織1点／竹富上布2点／弓浜紺工程見本6点 合計333点



会場内展示風景



ワークショップの様子

関連イベント

金沢ナイトミュージアム×金沢美術工芸大学

「糸を歌い染める」

日時 | 2025年8月22日(金) 19時開演 (約60分)

出演者 |

話し手 大高亨 (テキスタイル作家/本学工芸科教授)

演奏者 田上碧 (ヴォーカリスト)

北澤華蓮 (ヴァイオリニスト)

料金 | 無料

来場者 | 57名

主催 | (公財)金沢芸術創造財団 / (公財)金沢文化振興財団 / 公立大学法人金沢美術工芸大学、共催 | 金沢市、

後援 | 北國新聞社 / MRO北陸放送 / 石川テレビ放送 / テレビ金沢 / HAB北陸朝日放送 / エフエム石川、企画 | 金沢芸術創造財団 / 金沢美術工芸大学 (門田枝美子)

本イベントは、「金沢ナイトミュージアム×金沢美術工芸大学」としての初めての試みである。2号館の空間特性を生かし、作品を歌声によって鑑賞するプログラムとして企画した。来場者は展覧会解説を聴講した後、ヴォーカリストとバイオリニストによる「糸」をテーマとした新作パフォーマンスを鑑賞しながら、2号館内を自由に回遊し、音・展覧会・建築が交差する体験を味わった。

関連ワークショップ

日時 | 会期中自由

料金 | 無料

会期中には、植物染めの糸を用いて自由にしおりを制作できるワークショップ「糸をつかって「しおり」を作ろう!」を開催した。なお、使用した糸は、本学共通工房染織の技術専門員である松居氏の指導のもと、美術工芸研究所スタッフが染色したものである。



共通工房染織での糸染めの様子



イベントの様子



イベントの様子

■金沢美術工芸大学開学80周年記念プレイベント

「柳 宗理 デザインの軌跡ー三つの椅子ができるまでー」

会期 | 2025年9月2日(火)~2025年11月25日(火)

入場者数 | 2,237名

主催 | 金沢美術工芸大学 美術工芸研究所

特別協力 | (一社)柳工業デザイン研究会

協力 | (株)天童木工、(有)モノ・モノ

戦後日本を代表する工業デザイナーである柳宗理（やなぎ・そうり/1915-2011）は、金沢美術工芸大学において約50年にわたり教鞭を執った。本学デザイン科の理念「手で考える」には、手で模型を制作しながら思考を深める柳のデザイン手法が色濃く反映されている。本展覧会では、現存する模型や試作を手がかりに、柳宗理のデザインプロセスをたどった。柳が何を重視しながらデザインを進めていたのか、またその「かたち」がいかにして生み出されたのかについて、1990年代に手がけた《シェルチェア》《スタッキングチェア》《三角ツール》の3作品を例に、その思考と手法に迫った。

【主な展示作品】

「バタフライツール」天童木工(1956)／「図面と展開図(青焼き)」(1995)／「成型合板による試作(1回目)」(1995)／「試作 木材(ブナ)」(1998)／「エレファントツール」コトブキ(1954)／「ラフ模型 石膏」(1993頃)／「製品 木材

(ナラ、ウォールナット)、リノリウム」(2020)／「1/5スケール模型 スチレンボード」(1994)／「試作 木材(メープル)」(1995)／「試作 木材(ブナ)」(1997)／「アトリエで使用していた道具と模型」／「ファブリック エダ」(1956)／「ファブリック バーコード緑・茶」(1998) 他 合計48点



会場内展示風景

関連展示

「美術館で過ごす時間を豊かにする椅子」

日時 | 2025年10月6日(月)~2025年11月26日(水)

会場 | 金沢美術工芸大学 2号館 1階

協力 | インダストリアルデザイン専攻3年生、根来貴成(本学インダストリアルデザイン専攻教授/柳宗理記念デザイン研究所所長)

インダストリアルデザイン専攻3年生は、新設される柳宗

理デザインミュージアム（仮称）をイメージし、使用シーンに応じた座り心地を丁寧に検証しながら、20脚の椅子をデザイン・制作した。来館者が美術館で過ごす時間をより豊かにするための新しい「座る」の在り方を体感する機会となった。柳宗理が大切にしていた「手で考える」プロセスが、現在も脈々と受け継がれている。



会場内展示風景

関連企画

ギャラリートーク「デザインの軌跡—三つの椅子—」

日時 | 2025年10月7日(火) 17:40-19:00

会場 | 本学アートギャラリー

講師 | 藤田光一 (一社)柳工業デザイン研究会デザイン主任
根来貴成 本学インダストリアルデザイン専攻教授
柳宗理記念デザイン研究所所長

参加者 | 46名

アートギャラリー内において、作品や資料を前に対談形式のギャラリートークを開催した。参加者は講話に熱心に耳を傾けていた。



ギャラリートークの様子

関連企画

講演会「柳宗理のかたち—デザインと技術について—」

日時 | 2025年11月21日(金) 17:40-19:00

会場 | 本学101講義室（3号館1階）

講師 | 加藤直樹 (株)天童木工 企画部企画課次長

藤田光一 (一社)柳工業デザイン研究会デザイン主任

参加者 | 62名

加藤氏からは、天童木工における成形合板の歴史と技術、ならびに柳宗理が手がけたデザインアイテムについて解説があった。藤田氏からは、柳宗理と天童木工による共同制作の経緯などについて語られた。



講演会の様子

■コレクション展3

「卒業・修了制作の優品」

会期 | 2025年12月2日(火)～2026年3月1日(日)

入場者数 | 682名

主催 | 金沢美術工芸大学 美術工芸研究所

金沢美術工芸大学では、開館以来、卒業・修了制作作品の買上制度のもと、1,200点を超える優秀作品を収集してきた。本展では、そのコレクションの中から、動植物などの自然物をモチーフとした作品を紹介した。

【展示作品】

《Sample:虫》和田真以子(金工、2015)／《游》梅村晶江(日本画、1996)／《ことのはな》赤浜葉子(視覚デザイン、2014)／《半夏生》松原悠里子(日本画、2005)／《森》出和絵理(陶磁、2010)／《心を動かす空間デザインの研究－自然との関わりから人の豊かさを問う－》加藤こころ(環境デザイン、2021)／《[gentle rain]》西俣皓(染織、2007)／《記憶》東克彦(彫刻、2005) 合計8点



会場内展示風景

柳宗理記念デザイン研究所

今年度は年間で述べ15,186人、月平均で約1,300人の来場が本研究所にあった。観光客の増加とともに来館者数も増えてきている。今年度は、金沢美術工芸大学開学80周年イベントとして新キャンパスで特別イベントを開催した。最終年度は、ファイナルイベントを通して、柳宗理の価値の啓蒙ならびに教育普及の機会拡大に努めたい。この施設は令和8年度末にクローズとなり、新たにオープンする柳宗理デザインミュージアム（仮称）に移管される。

1. 調査

(1) 経常的調査

柳宗理の執筆、言及論文と発表歴に関する資料およびデータの整理を継続した。

2. 展示

(1) 常設展示（展示資料室1）

柳宗理がデザインした製品のうち現在も販売されているものを中心に約200点を常設展示している。実際の製品を展示・公開し、さらには各メーカーの製品が一堂に会している点において、来場者の好評を得ている。

(2) 企画展示（展示資料室2）

柳宗理の紹介映像を新しくしたことにより、じっくり座って鑑賞する人が増えた。写真パネルとともに柳宗理を知る良い場となっている。

3. 教育普及

(1) 大学との連携

【本学新入生ガイダンス】

日程 | 4/17（木） 参加者 | 学生21名、教員2名
・デザイン科インダストリアルデザイン専攻の新入生ガイダンスと展示室の見学を実施。学生たちが選んだお気に入りの一点について、プレゼンテーションを実施。また、柳宗理エッセイについてレポートを作成し学びを深めた。
・その他、学内外の学生たちも定期的に見学に訪れていた。

(2) 金沢市との連携

【金沢工芸子ども塾見学】

日程 | 5/10（土） 参加者 | 子供20名、講師1名
・金沢工芸子ども塾の塾生たちが、デザインパートの導入で柳宗理記念デザイン研究所を見学。気に入った作品を実際に手に触れてスケッチを行い、最後に全員で発表を行った。



新入生ガイダンス



金沢工芸子ども塾

(3) 金沢美術工芸大学開学80周年記念イベント

「柳宗理 デザインの軌跡ー三つの椅子ができるまでー」

日程 | 2025年9月2日(火)～2025年11月25日(火)

入場者数 | 2,237名

会場 | 金沢美術工芸大学2号館アートギャラリー

・学内外から学生やコアな見学者が多く訪れ、新キャンパスと教育者としての柳宗理の一面をアピールすることができた。

関連企画

ギャラリートーク「デザインの軌跡ー三つの椅子ー」

日程 | 2025年10月7日(火)

会場 | 金沢美術工芸大学アートギャラリー

講師 | 藤田光一（一社）柳工業デザイン研究会デザイン主任
根来貴成 本学インダストリアルデザイン専攻教授
柳宗理記念デザイン研究所所長

関連展示

「美術館で過ごす時間を豊かにする椅子」

期間 | 2025年10月6日(月)～2025年11月26日(水)

会場 | 金沢美術工芸大学2号館1階

協力 | インダストリアルデザイン専攻3年生、根来貴成（上と同じ）

関連企画

講演会「柳宗理のかたちーデザインと技術についてー」

日程 | 2025年11月21日(金)

会場 | 金沢美術工芸大学101講義室（3号館1階）

講師 | 加藤直樹（株）天童木工 企画部企画課次長
藤田光一（一社）柳工業デザイン研究会デザイン主任



柳宗理 デザインの軌跡ー三つの椅子ができるまでー



ギャラリートークの様子

学生作品の展示

（根来 貴成/柳宗理記念デザイン研究所所長）

平成の百工比照（令和6年度収集資料 染織）

繊維状の一定単位を、三単位以上、相互に交差させ、ひもにしたものを「組紐（くみひも）」という。交差時点における、それぞれの単位の交差角度が斜めになることを特徴とする。組紐のほか、撚り紐、編み紐、織り紐、裁ち紐、束ね紐などの概念の存立も可能だが、これらはその組織を構成している単位同士の、交差時における角度が組紐と異なる。ただし打ち紐は組紐に包括される。繊維状単位の、様々な交差の仕方（角度はあくまでも斜交差の連続による）によって、種々の組織構成が可能となる。それぞれの繊維の単位を条と呼び、普通、一条の中に数本から十数本の練糸を含ませる、三条以上何十条、何百条かが、交差の連続を重ねて一本の組紐を形成する。材料は絹が基本であり、場合によっては、木綿や麻などが用いられている。

宮内庁正倉院事務所編『正倉院の組紐』所収の山岡一晴「概説」では、「組紐」を以上のように定義している。勿論、原初的な意味での素朴な組紐は縄文時代より存在したが、こうした定義に合う組紐の歴史は、奈良時代の仏教伝来とともに語られることが一般的である。中国、朝鮮半島から伝わった高度な技術は、天平勝宝8年(756)6月21日、聖武天皇の七十七忌の忌日にあたり、光明皇后が天皇の冥福を祈念して遺愛品などを東大寺の本尊盧舎那仏(大仏)に奉獻した、いわゆる正倉院宝物の経巻、袈裟、楽器などに付された組紐に見ることができる。仏具の飾りのほか、聖徳太子の肖像画に描かれるように刀を腰からさげる紐などにも用いられ、平安時代以降は、日本独自の複雑な組み方や色の構成が発展し、貴族の装束や調度の飾りとして普及した。そして鎌倉時代から江戸時代、組紐は甲冑の威(おどし)、刀の柄巻や下緒など、武具の付属品として欠かせないものとなり、茶道具や日用の調度はもとより、江戸末期には女性の帯締めとしても用いられるようになった。とくに江戸時代に入り制作に内規台が使われるようになると技術が大きく発展し、その技術は明治時代以降も継承され今日に至っている。現在、「京くみひも」「伊賀くみひも」が国(経済産業省)の伝統的工芸品に指定されている。

今回の平成の百工比照事業では、こうした組紐の長い歴史の中で育まれてきた多彩な技を、網羅的かつ体系的に作成・収集することを試みた。監修を依頼したのは、国の選定保存技術保存団体である伝統技術伝承者協会(一般社団法人)で、同協会の多田牧子氏が全体の編集を担当し、総勢14名の技術者が制作を手掛けた。完成した組紐見本50箱は、材料1箱、クテ打6箱、唐組台4箱、丸台17箱、高台9箱、角台3箱、綾竹台5箱、創作5箱に分類されている。また各々の箱には「解説テキスト」を付して、そこに技法に関する解説、組織図や工程図を表し、さらに短い動画の二次元コードを添えた。これは、閲覧時の技術的な理解を深めるとともに、展覧会で展示する際にもそのまま活用できる仕様となっている。

全体の編集を担当し、制作技術者、テキスト執筆者として中心を担った多田氏は、学位論文「組紐の3次元構造の解明と製組方法の解明」で博士号(工学、京都工芸繊維大学)を取得した研究者で、組紐・組物学会理事をつとめ、平安時代の組紐復元など、日本の組紐のみならずアンデスの組紐を研究・制作し、海外からの研修生の受け入れや海外でのワークショップや作品展を通して組紐の魅力を伝え続けている。

末筆ながら本事業にあたり、同氏の長年の研究成果を惜しみなく提供いただいたことに感謝するとともに、日頃より文化財保護に尽力されている伝統技術伝承者協会に深く敬意を表したい。



1箱の中に、解説テキスト(組織図、工程図、動画の二次元コード)と組紐がセットで納めてある。



完成した資料箱

■全体構成：全50箱

○材料〔平糸・紛糸・撚り糸・金属糸〕 1箱

○クテ打〔組見本・制作写真・動画・図〕 6箱

- 1 蛇腹組・角組・平組（重打）・角組2本・御岳組・丸源氏組・笹波組
- 2 8畝平組「常組」
- 3 西大寺組・鞆淵組・中尊寺組
- 4 知恩院組・春日大社組
- 5 四天王寺組 2本
- 6 両面亀甲組

○唐組台〔組見本・作品写真・動画・図〕 4箱

- 1 六桁五菱・六桁二菱・六桁十菱
- 2 六桁十菱（試作）
- 3 八桁十菱（唐組平緒試作）
- 4 八桁四菱筒状唐組の帯締め

○丸台〔組見本・制作工程・動画・図〕 17箱

- 1 丸四つ組
- 2 江戸八つ組とその展開：江戸八つ組・かわり江戸八つ組・八つ老松
- 3 角八つ・八つ瀬
- 4 金剛組：八つ金剛・12金剛・16金剛・24金剛（それぞれS,Z, S&Z）
- 5 唐八つ組系：唐八つ組・平唐12・平唐16
- 6 重ね 江戸組・丸唐組・内記組
- 7 老松・平老松・籠目組
- 8 丸源氏・大和源氏
- 9 平源氏系：江戸源氏・厚耳源氏
- 10 小桜源氏・小桜源氏表裏違い
- 11 片瀬・笹波
- 12 丸台唐組・唐組合わせ・双び唐組
- 13 菊唐組
- 14 ゆるぎ・奥ゆるぎ・御岳
- 15 36玉花金剛・うねり丸金剛
- 16 檜垣・柀組・吉原つなぎ・六畝平組
- 17 アンデスの丸角組

○高台〔帯締め・初期配置・動画・図〕 9箱

- 1 安田組・高麗組・常組
- 2 笹波組（49玉）・青海波・笹波返し・菱笹波組・菱花笹波
- 3 半重ね唐組・鼓組・変わり笹波・笹波大和・変わり貝の口浮舟（58玉）
- 4 笹波高麗+青海波高麗・片面亀甲・64玉両面亀甲・巖島組・巖島組二枚組
- 5 小桜組・青海波鹿子・和+千羽鶴・叢・菊紋（92玉）
- 6 巖島（ネクタイ）
- 7 中尊寺組（72玉）・西大寺組（56玉）
- 8 両面亀甲（144玉）

9 アンデスの組紐（80玉） 振り笹波・振り菱つなぎ・振り四つ組柄・翼文組・三角山道

○角台〔帯締め・制作工程・動画・図〕 3箱

- 1 丸四つ組・角八つ組・江戸八つ組+鴨川巻・変わり江戸八つ・変わり江戸八つ組+蛸足房
- 2 丸唐組・平唐16玉+唐巻+苧房・平唐24玉・平唐24玉
- 3 翁組・唐梅・竹鳴子網代・網代16玉・三つ網代

○綾竹台〔帯締め・初期配置・動画・図〕 5箱

- 1 竹節組と笹柄組・梅駿河・半月・鎌倉組・折式・小うねり
- 2 松笠・変わり瓢・綾小桜・若杉・おどし組
- 3 鎌倉交差・双び鎌倉組・よろけ駿河・田毎・綾檜垣
- 4 両面大和そてつ・錦纏纏・四枚飛駿河・鎧組・違い四枚駿河
- 5 四枚緋駿河・四段綾竹・四段昼夜組・四段鱗組・四段違い鱗

○創作〔組見本・制作方法・動画・図〕 5箱

- 1 半円組・うねり角組・三角組1・三角組2・うねり三角組S
- 2 紐入り紐（Braid in braid）・ジグザグ組 ネックレス
- 3 アンバランス金剛16玉（バロック金剛）・アンバランス金剛24玉
- 4 2色平角螺旋組・クネクネ組
- 5 大波組・亀甲レース組・1-1 Braidingの花

監修：一般社団法人伝統技術伝承者協会

編集：多田牧子

作者：梅原初美、岡本睦子、尾崎嘉代、小嶋博子、清澤澄江、銭谷信子、多田牧子、多田真純、田村由美、永井夕子、西幾代、八田俊、丸山文乃、三上扶美子

協力：株式会社 テクスト、有限会社 昇苑くみひも



コレクション展2「KANABIの百工比照（染織編）」での展示風景

（山崎 剛／美術工芸研究所（兼）芸術学専攻教授）

学外での所蔵品展示紹介

本学所蔵品による学外展示を2件、企画展示した。

■「金沢美術工芸大学 in 新宿

卒業・修了制作作品展示+進学相談会

会期 | 2025年8月21日(木)-2025年8月24日(日)

会場 | こくみん共済coopホール/スペース・ゼロ 展示室
(東京都渋谷区代々木2-12-10-B1)

入場者数 | 71人

主催 | 金沢美術工芸大学



タイトルにある様に、本展示は進学相談会の会場において、本学の卒業・修了制作作品を首都圏の受験生および一般来場者に向けて紹介するものである。展示作品は、学生買上作品の中から近年の作品を選定し、各専攻1点ずつ展示した。来場者の多くは本学に関心をもつ受験生であり、なかには遠く九州から進学相談会にあわせて来場し、時間をかけて作品を鑑賞する来場者も見られた。

(展示作品10点)

高橋紀子《いつか閉じた家》/高山桃歌《臉の裏に》/當山絢香《T山TV放送》/武之嵐《Inner World》/笹井南海《微風》
他



展示風景

■「出張 KANABI ART GALLERY」

会期 | 2025年10月11日(土) - 2025年10月19日(日)

会場 | 香林坊アトリオ B1F 特設会場、4F アトリオAサロン、
豎町 HARMONIE 2F studio、金沢美術工芸大学 2号館、
柳宗理記念デザイン研究所

入場者数 | 794人

主催 | 金沢美術工芸大学

「美大のあるまち、作品と出会う9日間！」と題し、美術科・デザイン科・工芸科の卒業・修了生の若い感性によって生み出された作品を、市内5か所で展示した。来場者がまち



を巡りながら作品との出会いを楽しむ機会とすることを目的とし、会場を巡るきっかけとして、デジタルスタンプラリーを導入し、限定グッズのプレゼントを行った。各会場には「自然と物語と表現」「時間と思考と私」のテーマを設定し、作品鑑賞の導入となる構成を行った。香林坊アトリオB1F特設会場

場は高い集客力を有するが、食品売り場に面する環境を踏まえ、展示形式としてミニシアターをイメージし、「描くと見るとアニメーション」として映像作品6点の上映を行った。運営上の課題としては、各会場における異なる展示条件への対応や、限られた時間での作品の搬入出の難しさが挙げられる。一方で、親しみやすいチラシやデジタルスタンプラリーの効果もあり、全会場の来場者数を合計すると794人にのぼり、多くの方に作品鑑賞の機会を創出することができた。

(展示作品20点)



展示風景/上) 香林坊アトリオ B1F 特設会場、中) 香林坊アトリオ 4F アトリオAサロン、下) 豎町 HARMONIE 2F studio
Photo : KATANO Masahiro

他館への所蔵作品貸出紹介

貸出所蔵作品（2点）

1. 復元模写《シモーネ・マルティーニ〈受胎告知〉》1972-78年 石原靖夫
2. 《テンペラ技法見本》1988年 石原靖夫

■「中世の華・黄金テンペラ画－石原靖夫の復元模写

チェンニーノ・チェンニーニ『絵画術の書』を巡る旅

会期 | 2025年2月15日(土)-2025年3月23日(日)

会場 | 目黒区美術館

主催 | (公財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館

協賛 | (公財)北野生涯教育振興会、ダンレックス株式会社

企画協力 | & 4 + do、中世絵画工房FOND'ORO

本展は、日本の美術館では紹介される機会の少ない卵黄テンペラ技法を、作品および関連資料を通して多角的に紹介するものである。

会場では、6年の歳月をかけて制作された復元模写《シモーネ・マルティーニ〈受胎告知〉》を中心に、制作当時で使用された道具や材料、綿密な研究ノートなどの周辺資料が展示された。天井の高い空間に祭壇画のように展示された本作は、神々しさを帯び、作品と対峙した際には、作者が制作に注いだ時間や思考の蓄積が強く伝わってきた。さらに、本展のために新たに制作された石原靖夫によるテンペラ制作工程の動画により、なじみの薄いテンペラ技法を視覚的に理解することができ、鑑賞体験をより深いものとした。

今回の貸出により、目黒区美術館における長年の研究成果と学芸員の専門的知見を通して、技法や材料、細部表現に至るまで体系的に整理・発信されたことは、本学にとっても新たな知見を得る機会となった。

本貸出および展示にあたり、企画・調査・展示を担われた目黒区美術館の関係者各位、ならびに安全かつ丁寧な輸送・設置に尽力された輸送設置業者の皆様にも、深く感謝申し上げます。



目黒区美術館での展示風景
撮影者：桜井ただひさ

貸出所蔵作品（1点）

1. 《Tabula Rasa》2023年 綿結

■「皮膚と内臓－自己、世界、時間」展

会期 | 2025年10月3日(金)－2026年1月18日(日)

会場 | 台南市美術館2号館1階ギャラリーA、B、C、D

主催 | 台南市美術館（台湾）

共催 | 認定NPO法人趣都金沢

協賛 | (公財)日本台湾交流協会

助成 | 文化芸術活動基盤強化基金

本展は、皮膚や内臓といった身体感覚を起点に、自己と世界、時間の関係を問い直す展覧会である。日本の女性作家による多様な素材表現を通して、存在や感覚の在り方を探った。

本学からは、修士課程に在籍中で、卒業制作の作品が買上となり、本学の所蔵作品である綿結の《Tabula Rasa》を貸し出した。土で染めた糸で織られた構造物からは、生命の根源的な魅力を感じる。なお、本作は「GO FOR KOGEI 2024」においても展示された。

今回は遠方のため、現地で展示を鑑賞することは叶わなかったが、展示写真からは、強い存在感を放っていた様子が伺えた。本学の学生買上作品がこのようなかたちで国内外の展覧会において展示され、多くの鑑賞者の目に触れることで、作家自身の今後の活動の広がりにつながることを期待したい。



台南美術館での展示風景（手前の作品が本学所蔵作品）
Courtesy of Tainan Art Museum

その他、石川県立歴史博物館、小松市立宮本三郎美術館など、8館に所蔵作品11点の貸出を行った。

(門田枝美子／美術工芸研究所美術館事務)

令和7年度 収集美術資料一覧

■ 寄附資料	■ 制作年	■ 作者名等	■ 分類	■ 寸法・素材
アニメーション「明日の風に向かって -ありのままの舎物語-」	2001年	有限会社MAD	映像	16mmポジフィルム／3号プリント 1点 カラー、上映時間78分
有限会社MAD制作アニメーション作品 中間生成物1（動画セル等）	1966年他	有限会社MAD		動画セル+背景 11点

令和7年度 卒業・修了制作買上作品一覧

■ 買上作品	■ 制作年	■ 作者名	■ 学位・専攻
《野のこ》	2025年	能條 玲衣	修士・工芸科
《放置竹林に着目したCLBを用いたショッピングカート とその循環の研究》	2025年	坂東凜汰朗	修士・製品デザイン専攻
《永遠／一瞬》	2025年	松澤 慶	学部・工芸科

令和7年度修復実績

・《なんなら……おれと仲よくしておくれよ》 早川沙貴

令和7年度所蔵作品活用実績

【貸与件数】

学内利用（貸与・特別利用含） 22件（132点）
 ・学外利用（貸与） 8件（11点）
 ・学外特別利用件数（画像利用等） 6件（14点）
 ・学外卒業買上作品利用（貸与・特別利用含） 5件（5点）
 ・卒業・修了作品魅力発信事業 2件（2点）
 ・市内各所貸与（年度更新） 18か所（57点）

※令和8年3月1日集計

※本学主催の企画展等への出品および本学寄託資料の活用を除く

【平成の百工比照展示・閲覧コーナー】

・開室時間 月～金曜日：10時～17時
 ・休室日 土曜日、日曜日、祝祭日、夏季・春季休業期間、
 年未年始、入学試験期間など
 ・入場料 無料
 ・開室日数 222日
 ・入場者数 3,762名
 ※令和8年3月1日時点

【アートギャラリー開室状況】

・開室時間 月～金曜日：10時～17時
 ・休室日 土曜日、日曜日、祝祭日、夏季・春季休業期間、
 年未年始、入学試験期間、展示替え期間など
 ・入場料 無料
 ・開室日数 210日
 ・入場者数 5,112名
 ※令和8年3月1日時点

研究所運営会議	／安島 諭（美術工芸研究所所長、インダストリアルデザイン専攻）、山崎 剛（美術工芸研究所（兼）芸術学専攻）、村松 綾（美術工芸研究所（兼）芸術学専攻）、渋谷 拓（一般教育等）、根来貴成（柳宗理記念デザイン研究所所長、インダストリアルデザイン専攻）
美術工芸研究所	／所長：安島 諭（（兼）インダストリアルデザイン専攻）、山崎 剛（（兼）芸術学専攻）、村松 綾（（兼）芸術学専攻）、門田枝美子（美術館事務）、秋山 恵（美術館事務）
柳宗理記念デザイン研究所	／所長：根来貴成（インダストリアルデザイン専攻）